

再評価結果（平成16年度 事業継続 箇所）

担 当 課：道路局国道・防災課
担当課長名：中島 威夫

事業名 一般国道353号 鯉沢バイパス	事業区分 一般国道	事業主体 群馬県
起終点 群馬県北群馬郡子持村大字白井 群馬県北群馬郡子持村大字北牧	延長 2.2km	
事業概要 一般国道353号は、群馬県桐生市を起点とし新潟県柏崎市に至る延長152kmの幹線道路である。鯉沢バイパスは国道353号と国道17号との交差点である鯉沢交差点付近の慢性的な交通渋滞の解消を目的として計画された、延長2.2kmの2車線バイパスである。		
S63年度事業化	H 年度都市計画決定 (H 年度変更)	H 元年度用地着手
全体事業費 58億円		事業進捗率 82%
計画交通量 7,600台/日		供用済延長 0.8km
費用対効果 分析結果	B/C (事業全体) 2.2 (残事業) 6.5	総費用 (残事業)/(事業全体) 13/38億円 (事業費: 10/35億円 維持管理費: 3/3億円)
		総便益 (残事業)/(事業全体) 82/82億円 (走行時間短縮便益: 78/78億円 走行費用減少便益: 4/4億円 交通事故減少便益: 1/1億円)
基準年 平成15年		
事業の効果等 ・円滑なモビリティの確保（現道における混雑時旅行速度が20km未満である区間が解消される。） ・個性ある地域の形成（主要な観光地である吾妻地域へのアクセスが向上する。） 他5項目に該当（定量的評価項目を含む）		
関係する地方公共団体等の意見 国道353号鯉沢バイパスは、全国でも有数の観光地域である吾妻地域への玄関口として重要なバイパスであり、渋川市をはじめとする関係4町6村の首長で構成される国道17号・353号鯉沢バイパス建設促進期成同盟会より早期整備の要望（平成15年6月10日）を受けている。		
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 部分供用後の現在でも鯉沢交差点の渋滞は著しく現道に旅行速度の低い区間がある。		
事業の進捗状況、残事業の内容等 一部において用地補償協議が難航し、工事着手までに長期間を要したが、現在までに0.8kmを部分供用している。		
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 平成15年度までに本線に係る用地買収を完了したため、全線にわたり工事を進められる状況となった。このため、今後は本工事を進め、平成17年度に供用開始を目指す。		
施設の構造や工法の変更等 国道17号との交差点は立体交差計画であったが、暫定平面交差としコスト縮減を図った。		
対応方針 事業継続		
対応方針決定の理由 以上の状況を勘案すれば、当初から事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。		
事業概要図 L=2,200m		

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。
※事業全体の費用便益は、既供用区間を除く区間を対象とした費用便益分析を行っている。